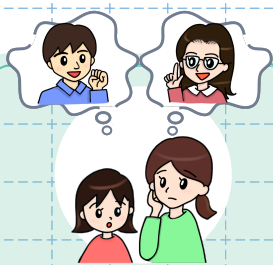


～考え方と対応を職員間で共有しよう～



担任の先生やクラスによって給食指導は多少異なるものです。全てを統一することは難しいですが、対応があまりにも違うことによって、子どもや保護者が不安になることもあります。今回の記事では給食指導を職員間で共有するポイントをお伝えします。

「考え方」と「対応」を共有する大切さ

給食指導においては目標だけではなく、そのための「考え方」や「対応」まで共有することが大切です。

例

園や学校の目標が「子どもの食を広げよう」だった場合



A先生

「それなら、楽しい雰囲気を大切にしよう!!」

「それなら、残さず食べさせなければいけない!!」



B先生

“ 同じ目標でも考え方が違うと... ”
具体的な対応が異なってしまう

考え方の例

「楽しく食べられる雰囲気を大切にする」

対応の例

「スモールステップで、苦手な食べ物はにおいを嗅ぐことからOK」等

子ども目線で考えてみよう

子ども目線に立つと、自分が同じ振る舞いをしているのに、先生によって対応が変わるのは不安要素の1つになります。

先生によって
対応がコロコロ変わる

自分の振る舞いによって先生は
こういう反応をする見通しが持てない

どうすればいいか
わからず安心できない

①

②

③

先生によって
基本的な対応が同じ

自分の振る舞いによって先生は
こういう反応をする見通しが持てる

どうすればいいか
わかり安心につながる

職員間で「きゅうけん」の資料を回覧したり、研修を導入するのもオススメです! /

解説記事では、職員間での共有したい資料の例や、給食だよりなどで保護者に伝える例なども掲載! 右下のQRコードからアクセスしてみましょう!

詳しい解説記事は
こちら!

